

## 出題傾向

大問8題、小問45問で、すべて4つの選択肢から正解を1つ選ぶ選択式の問題となっている。構成は、会話文問題1題（小問10問、A・Bの2つの会話文にそれぞれ5問ずつ）、整序英作文問題1題（小問5問）、中文空所補充問題1題（小問5問）、文法・語法問題2題（それぞれ小問5問）、語彙問題1題（小問5問）、中文読解問題1題（小問5問）、長文読解問題1題（小問5問）である。

会話文問題では、A問題とB問題に分かれており、それぞれある程度の分量の会話文に対して、適文補充問題3問ずつと、内容に関する英問英答問題2問ずつが用意されている。整序英作文問題は、与えられた日本語訳を参考に、英文中に用意された4つの選択肢を並べ替え、指示された箇所の選択肢を答える形式である。中文空所補充問題では、200語～300語程度の説明文を題材にして、文章中の5つの空所に対して、それぞれ選択肢が用意されている。文法・語法・語彙問題は、いずれも英文中に設けられた空所に対して、補うのに適した選択肢を答える形式である。なお、文法・語法問題1題と、語彙問題には、英文に相当した日本語が用意されていないので注意すること。中文読解問題は、A、Bの2つの文章が用意されていて、題材としてそれぞれ100語前後の英文が使われている。Aには2つ、Bには3つの空所が設けられていて、それぞれ4つの選択肢の中から文脈に沿った選択肢を答える形式である。長文読解問題では、600～700語程度の説明文を題材にして、内容に関する英問英答の問題が4問と、内容に一致する日本語で書かれた選択肢を選ぶ問題が1問用意されている。中文読解問題、長文読解問題ともに、入試標準レベルの説明文なので、主旨がわかりやすい評論文とは違うため、その読み方にも注意が必要である。

全体として、文法分野では、今まで学習した英語の知識を正確に使えるかどうかが問われており、読解分野では、英文として与えられた情報をすばやく正確に処理する能力が問われている。難易度は高くなく、文法分野は教科書レベルであるが、量が多めの説明文が用いられているため、時間内に終えるために、すばやく正確に問題を解く練習を日ごろから積んでおくことが必要となる。

## 学習アドバイス

### ●会話文問題

文章形式ではあるが、高校でも学習する比較的簡単な日常会話に関する英文が用いられており、それほど苦勞なく理解できるだろう。だからこそ、会話の基本である「発話→応答」のつながりを意識して、会話文中に答えの根拠となる発話や表現を見つけて、それを元にして答えるよう努めよう。英問英答問題でも、問われた内容に対する答えの根拠が会話文中に必ずあるので、それをしっかりおさえてから解答することで、会話文問題でよく起こる勘違いをなくすることができる。日々の学習では、会話独特の表現をその都度メモして覚えるなど、地道な学習が大切である。

### ●文法・語法・語彙・整序英作文問題

「品詞とその使い方」「5つの文型と品詞の対応」について不確かなことがあれば、必ず文法参考書をしっかり読んで理解することが先決である。その上で、標準的な文法問題集に取り組みつつ、比較的簡単な整序英作文問題集にも取り組みと良い。一冊でまとめたければ、英検2級の文法問題集でも良い。文法力に自信が無いならば、英検準2級の文法問題集から始めてみよう。その後で上位の問題集に進むと良い。とにかく、数をこなして、標準レベルまでの文法知識を習得することに努めよう。

### ●中文空所補充問題、中文・長文読解問題

まず、日ごろ使っている教科書を、レッスンごとに時間を計って頭から読み下してみよう。その後、かかった時間を記入し、内容を書き出す。忘れていた単語や熟語は、とにかく取り出して覚えておくこと。音声がついているのであれば、それを活用したい。音声を流しつつ一緒に音読し、その後、同じ文章を繰り返し聞いて、その内容をまとめると、読むスピードも早くなる。今まで学習してきたものを使って、対策を立てる力を養うと良い。その後、解答時間の目安が書かれてある入試標準レベルの問題集を用意し、時間内に正確に解けるよう心がけ、徐々に時間を縮めて行って、最終的に3分の2程度の時間で解けるように練習する。また、高校生用の週刊英字新聞を購入し、毎日2、3記事を隙間の時間に読むと良い。とにかく、解く力だけでなく、英文を読むことに慣れ、説明された内容をすばやく正確に読む力を養おう。

今までの学習やその題材を最大限活かしつつ、地道に学習を進める姿勢は、進学後も自分の支えとなる。合格を勝ち取り、進学後も活躍するための力となってくれるだろう。